

日本文化研究班

研究プロジェクト代表

赤間 亮

(立命館大学大学院文学研究科・教授)

「日本版画・版本の美」プロジェクト

本プロジェクトでは、世界に広がる日本版画や版本を対象に、人文学研究における新しい研究手法であるデジタルアーカイブを通じて、これまで不可能とされてきたさまざまな研究の可能性を開拓している。

1, 浮世絵と版本(古典籍)のアーカイブ

浮世絵や日本の古典籍、とりわけ絵入版本は、色摺であるため見た目にも美しく、世界中に広がって所蔵されている。欧米の所蔵品は、その所蔵環境もさることながら、もともと高品質のものがピックアップされて持出されたため、この分野の研究には、海外調査が必須である。そのため、調査費用が膨大になるため、遅々として研究は進んでいない。本プロジェクトでは、これらに対する総合的なデジタルアーカイブを行ない、世界中の資料が世界共通で比較検討できる基盤的な環境を構築していく。

現在は、英国を中心に、ヴィクトリア&アルバート博物館、大英博物館などの浮世絵・版本の網羅的なデジタルアーカイブを実施している。



2, 版木アーカイブ

版本と版画の美プロジェクト

従来その取り扱いが困難とされてきた版木資料を対象に、デジタル・アーカイブ構築を行なっている。版木資料を研究資源として WEB 公開し、研究者間の情報共有を目指している。版本のみを対象としてきた出版文化研究手法に版木資料を加えることで、近世京都を中心とする出版システムの解明を行なう。なお版木資料の存在とその価値を江湖に知らしめるため「近世版木展」を開催する(会場：アート・リサーチセンター、会期：2009年2月16日～3月6日)。

版木資料は、版本に比べて格段に重く、厚みもあって嵩高い。版木は墨で摺られるため、多くの場合が黒一色であることから、一般的な白黒2値やグレースケールの紙焼き複写を作ることも困難であった。版木資料が十分に研究活用されてこなかった所以であるが、当プロジェクトではライティング方法について検討を重ね、5パターンのライティングによるデジタル撮影手法を確立し、版木の複雑な表面をデジタル画像によって記録することに成功した。

この技術によって、江戸期に版元が実際に使っていた現奈良大学所蔵版木資料(約4,000点)について、約80,000カットに及ぶデジタル画像を作成し、WEB上で研究者共有型データベースを構築、稼働させている。本の頁をめくるかのように版木1枚ずつまたは作品単位を閲覧可能な他、5つのライティングパターンを切り替えて閲覧できるなど、仕様を持つ。書誌学的に必要となるその他の項目や備考・注記等をWEB上で随時更新可能な設計とし、調査分析結果の蓄積を行なっている。



奈良大での版木デジタル撮影風景

協力機関：大英博物館、ボストン美術館、良大学、他